

8. 学識経験者(第三者)による講評

■講評担当：法政大学 キャリアデザイン学部 教授 梅崎修

■内容

昨年に続いて同じ委託事業の講評を担当した。就職氷河期世代の無業・失業率は、他世代と比べても高く、その世代が高齢化することによって就労への壁も高くなっている。現在、就労中の者も転職を考えている可能性も高い。ものづくり基礎セミナーの参加者を見ても、アルバイトや非正規で働いている人が多く、転職によって正社員を目指していることがわかる。統計的な把握は困難であるが、就労支援を必要とする人は、潜在的にはかなりの人数になると予測される。

本プログラムの内容については、就職氷河期世代の就労支援に適した内容になっている。就労獲得に欠かせないスキル獲得のための「ものづくり基礎セミナー」、企業説明会と共に事前対策セミナーを実施している点も、昨年と同様に効果的なプログラムであると評価できる。

問題点は、昨年指摘した参加人数の少なさが改善されず、参加が増えていないことである。広報については情報を流す複数のチャンネルがある。しかし、それでも参加者が増えないのは、どのような情報をどのように流すかであろう。内容的には良くて、利用してみたいと思ってももらえるメッセージがないと参加者は増えない。

昨年度は、大阪のサポステを運営する HELLOlife による「こたつで就活」という合同企業説明会を紹介した。「こたつ」というのは、二つの意味がある。まず、打ち解けやすい相談の場が設計されていること、そして、そのような親身な相談であることが多くの人に伝わりやすいということである。本事業も、内容の工夫やメッセージの工夫を行うべきであると考え。

以上